

35. 救急科

救急科部長 山田哲久

当院は、人口およそ40万人の筑豊地域唯一の三次救急施設です。筑豊地域最後の砦としての役割を担うために、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）が365日24時間救急患者に対応しています。従って、一次二次症例は積極的に受け入れをお断りしています。一次二次医療機関からの紹介や救急隊からの受け入れも、三次症例でなければ基本にお断りしています。当院でなければ受け入れが困難な症例を厳選して受け入れることを目指しています。2024年は救急搬送患者の入院率は65%でした。

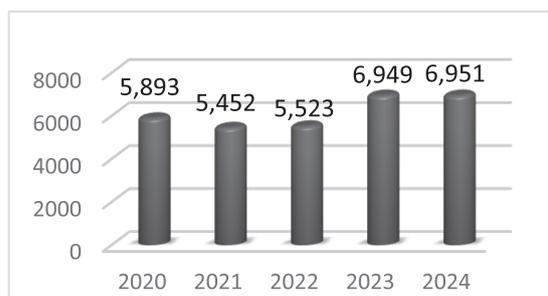
救急科医師は搬送患者の状態を迅速に安定化させ、各専門科医師に引き継ぐ役割を担っております。当科の特色の一つに、病院車運用方式でラピッドレスポンスカーによるドクターカーの運用があります。現場から傷病者に対する診断、処置を開始します。心肺停止患者においてドクターカー症例は統計学的に有意に心拍再開率が高い結果となっています。ドクターカーは筑豊地域の救命体制の中心的役割を果たしていると考えています。

教育面では、当院は臨床研修指定病院であり、初期研修医および院外からの後期研修医・専攻医は救急科をローテーションすることを必須としています。救命救急センターでは、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）のバックアップのもと、研修医が初期診療を行います。当院の救命救急センターは、症例数が豊富であり、研修医にとって修練の場として最適な環境となっています。従って初期診療は専門科ではなく研修医が行います。

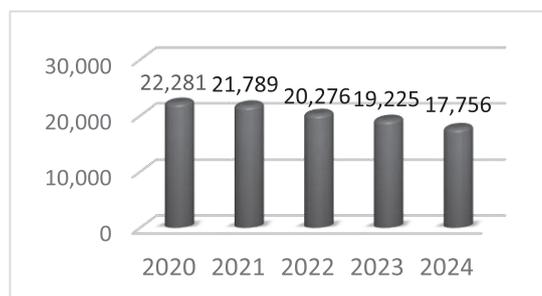
以上、今後も筑豊地域の救急医療に貢献させていただくことができましたら幸いです。

1) 救命救急センター統計

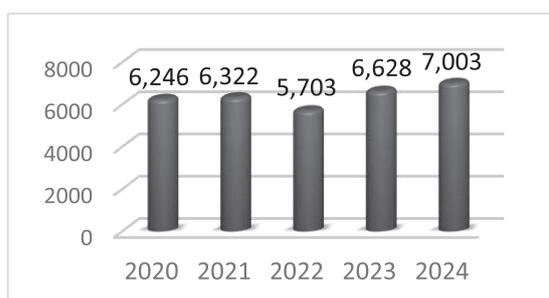
①救急車受入件数推移



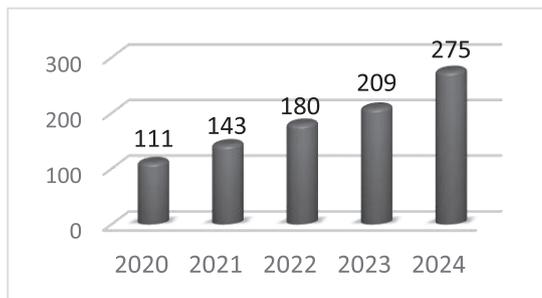
②センター受診患者数推移



③センター経由入院患者数推移（全診療科）



④ドクターカー出動件数



2) 主な症例別件数

・ 外傷	355例	・ 脳卒中	522例
AIS ≥ 3	242例	脳梗塞	278例
ISS ≥ 16	113例	くも膜下出血	54例
・ CPA	282例	脳出血	190例
救外死亡	214例	・ 急性冠症候群	259例
入院	66例	心筋梗塞	200例
転医	1例	狭心症	59例
帰宅	1例	・ 急性大動脈解離	66例
（入院後転帰）		・ 敗血症	182例
死亡	39例		
帰宅	17例		
転医	9例		
入院中	1例		